

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 人体の構造と機能 I - 2

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	木ノ内 秀効 (きのうち ひでき)	
単位数	4 単位	実務経験	鍼灸接骨院 院長	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 36 回

【授業情報】

授業概要	実際の臨床現場では、様々な疾患を持つ患者様がいるため、筋肉・臓器の位置、正常な人体構造を患者様へアドバイスできる治療家になれるよう、自らの経験に基づいて人体構造を臨床的に理解できるように指導する。2年次では、1年次より引き続き、内臓器系として、消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌系および循環器系についての知識を身につける。
授業の一般目標 (GIO)	消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌系について構造を詳しく理解し、説明できる。

【担当教員から】

教科書	「解剖生理」 (社)東洋療法学校協会編 (株)医歯薬出版
参考書	プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 医学書院
成績評価基準	評価の観点とは 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合(%)) 中間試験成績----- 20% 期末試験成績----- 80%
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	まず、必要な事は教科書を読むこと！！ 教科書を読めば授業の流れが分かるので、予習では先ずは教科書を読んで教科書の太字をチェックする事。復習は教科書と板書を見比べ自分なりのノートを作って下さい。解剖学は人間の基本です。病気などの異常を覚える前に正常を頭に入れれば病気のことも覚えやすくなります。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	内臓器系 (総論)	内臓器の概要を説明できる	講義
	2	消化器系	口腔、咽頭、食道の構造を説明できる	講義
	3	消化器系	胃の構造を説明できる	講義
	4	消化器系	小腸の構造を説明できる	講義
	5	消化器系	大腸、肝臓、胆嚢の構造を説明できる	講義
	6	消化器系	膵臓、腹膜の構造を説明できる	講義
	7	呼吸器系	鼻腔、副鼻腔の構造を説明できる	講義
	8	呼吸器系	咽頭、喉頭、気管の構造を説明できる	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解答・解説		講義
	11	呼吸器系	気管支の構造を説明できる	講義
	12	呼吸器系	肺の構造を説明できる	講義
	13	呼吸器系	胸膜、縦隔の構造を説明できる	講義
	14	泌尿器系	腎臓の構造を説明できる	講義
	15	泌尿器系	腎臓の構造を説明できる	講義
	16	泌尿器系	尿管の構造を説明できる	講義
	17	泌尿器系	膀胱、尿道の構造を説明できる	講義
	18	前期期末試験		試験
後期	19	前期期末試験の解答・解説		講義
	20	生殖器系	男性生殖器の構造を説明できる	講義
	21	生殖器系	女性生殖器の構造を説明できる	講義
	22	生殖器系	受精から発生までの流れを説明できる	講義
	23	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体の構造を説明できる	講義
	24	内分泌系	副腎、膵臓の構造を説明できる	講義
	25	内分泌系	精巣、卵巣の構造を説明できる	講義
	26	循環器系	心臓の位置、構造について説明できる	講義
	27	中間試験		試験
	28	中間試験の解答・解説		講義
	29	循環器系	心臓の刺激伝導系について説明できる	講義
	30	循環器系	体幹、頭部の動脈について説明できる。	講義
	31	循環器系	上肢・下肢の動脈について説明できる。	講義
	32	循環器系	体幹、頭部の静脈について説明できる。	講義
	33	循環器系	上肢・下肢の静脈について説明できる。	講義
	34	循環器系	リンパ系の構造、分布について説明できる。	講義
	35	後期期末試験		試験
	36	後期期末試験の解答・解説		講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 人体の構造と機能Ⅱ-2

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	小畑 幸嗣（おばた こうじ）	
単位数	4 単位	実務経験	鍼灸マッサージ院 勤務	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 36 回

【授業情報】

授業概要	現在、臨床の現場では他の専門職の方との多職種連携の場が増えている。そこで情報共有、理解の必要性を知るとともに、2年次では1年次に修得した基礎知識の幅を広げるため、各臓器や器官系のさらに詳細な機能について学ぶ。前期では消化と吸収、代謝、排泄、内分泌について、後期では生殖・成長と老化、神経についてさらに理解を深め、知識をつけていく。
授業の一般目標 (GIO)	人体の機能について理解し、正しく説明することが出来る。 消化と吸収、代謝、排泄、内分泌、生殖・成長と老化、神経について解剖学や臨床医学各論と関連付けながら、理解を深めていく。

【担当教員から】

教科書	「解剖生理」医歯薬出版（株）
参考書	
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験及び進級試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合（%）） 中間試験成績-----20% 期末試験成績-----80%
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。 なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	臨床の場では、人体の生命現象、正常機能を理解していることは施術中の会話や異常の発見には不可欠です。この講義でしっかりと身に付けてください。 生理学は覚えることも必要ですが、「思考する、理解する」教科と考えています。講義だけでは理解できないこともあると思います。復習として繰り返し教科書を熟読し、理解を深めてください。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
前期	1	消化と吸収：消化管の運動	消化管の運動を説明できる	講義
	2	消化と吸収：消化液（唾液・胃液）	唾液・胃液の働きと分泌調節を説明できる	講義
	3	消化と吸収：消化液（膵液・胆汁・腸液）	膵液・胆汁・腸液の働きと分泌調節を説明できる	講義
	4	消化と吸収：消化管ホルモン、栄養素の吸収	消化管ホルモンの働き、栄養素の吸収のしくみを説明できる	講義
	5	消化と吸収：肝臓の働き、摂食の調節	肝臓の働き、摂食行動が起こるしくみを説明できる	講義
	6	代謝	基礎代謝、各栄養素の代謝過程を説明できる	講義
	7	排泄：腎臓の働き、腎循環	腎臓の働き、腎血流量の自己調節を説明できる	講義
	8	排泄：糸球体濾過、尿細管の再吸収・分泌	糸球体におけるろ過のしくみ、尿細管における再吸収・分泌を説明できる	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答		講義
	11	排泄：クリアランス	クリアランスを説明できる	講義
	12	排泄：体液の調節	体液の調節のしくみを説明できる	講義
	13	排泄：蓄尿・排尿	蓄尿と排尿反射のしくみを説明できる	講義
	14	内分泌：ホルモンの概要 視床下部ホルモン	ホルモンの構造、作用機序、分泌量の調節のしくみを説明できる 視床下部ホルモンの働きと分泌調節を説明できる	講義
	15	内分泌：下垂体ホルモン 甲状腺ホルモン、カルシトニン	下垂体ホルモン、甲状腺ホルモンの働きと分泌調節を説明できる	講義
	16	内分泌：副甲状腺ホルモン 膵臓ホルモン、血糖調節	副甲状腺ホルモン・膵臓ホルモンの働きと分泌調節、血糖調節を説明できる	講義
	17	内分泌：副腎髄質ホルモン、副腎皮質ホルモン 松果体ホルモン	副腎髄質ホルモン・副腎皮質ホルモン・松果体ホルモンの働きと分泌調節を説明できる	講義
	18	期末試験		試験
後期	19	期末試験の解説・解答		講義
	20	生殖：男性生殖器、男性ホルモン、性反射	精子の形成、アンドロゲンの働きと分泌調節、勃起・射精のしくみを説明できる	講義
	21	生殖：女性生殖器、女性ホルモン、性周期	卵子の形成、女性ホルモンの働きと分泌調節、卵巣周期と月経周期を説明できる	講義
	22	生殖：妊娠、分娩、乳汁分泌	受精・着床・妊娠、分娩、乳汁分泌のしくみを説明できる。	講義
	23	成長・老化	各器官の成長、生理的老化の特徴と身体機能の加齢変化を説明できる	講義
	24	神経：ニューロン、軸索輸送、変性と再生	ニューロンの構造と働き、軸索輸送、軸索の変性・再生を説明できる	講義
	25	神経：膜電位	静止電位、活動電位を説明できる	講義
	26	神経：興奮の伝導、神経線維の分類	興奮伝導のしくみと跳躍伝導、伝導速度、神経線維の種類を説明できる	講義
	27	中間試験		試験
	28	中間試験の解説・解答		講義
	29	神経：シナプス伝達	シナプス伝達の特徴、神経伝達物質と受容体の種類を説明できる	講義
	30	神経：中枢神経系の機能	統合機能と反射機能、脊髄の働きを説明できる	講義
	31	神経：脊髄内の伝導路	脊髄内を通る伝導路を説明できる	講義
	32	神経：脳幹の機能、小脳の機能、間脳の機能	脳幹（中脳・橋・延髄）の働き、小脳の働き、間脳（視床・視床下部）の働きを説明できる	講義
	33	神経：大脳基底核の機能、大脳辺縁系の機能	大脳基底核の働き、大脳辺縁系の働きを説明できる	講義
	34	神経：新皮質の機能、脳脊髄液	新皮質の機能局在と高次脳機能、脳波、脳脊髄液を説明できる。	講義
	35	期末試験		試験
	36	期末試験の解説・解答		講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門基礎分野 疾病の成り立ち、予防、回復の促進

【科目】 疾病・障害の診断と治療学Ⅱ-2

【基本情報】

配当年次	2 学年		担当教員	二ノ坂 和統（にのさか かずと）	
単位数	4 単位		実務経験	附属施術所勤務、治療院勤務経験あり	
科目必選区分	必修		時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	36 回

【授業情報】

授業概要	医療面接の閉ざされた質問では、主症状から考えられる疾患を絞っていく必要があります。その意味でも各疾患の特徴をしっかりと捉えておく事が大切になります。従ってこの科目では、実際の臨床において遭遇する機会が多い疾患などの具体例を示しながら、また国家試験に出題されることが多い疾患や症候についても重点的に学習する。
授業の一般目標 (GIO)	整形外科疾患、消化管疾患、肝・胆・膵疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌疾患の概念・疫学・成因と病態生理・症状・診断・治療・予後について説明できる。

【担当教員から】

教科書	「臨床医学各論」第2版 医歯薬出版（株）
参考書	
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合(%)） 中間試験成績-----20% 期末試験成績-----80%
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。疾病や外傷による傷害を理解するために、健康な身体の生理機能を理解しておく必要があります。
★担当教員からのメッセージ	教科書はとても大切だと考えています。プリントも使用しますが、あくまで補助的な資料ですので、教科書には記名を忘れずになくさないようにし、授業時も必ず持ってくるようにして下さい。また、予習より復習が大切なのでロッカーに置いて帰ることもないようにしましょう。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間、または放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
前期	1	整形外科疾患：総論、関節疾患	保存的治療と観血的治療、画像診断、関節炎について説明できる	講義
	2	整形外科疾患：関節疾患	五十肩、変形性関節症について説明できる	講義
	3	整形外科疾患：骨代謝性疾患、骨腫瘍	骨粗鬆症、くる病・骨軟化症、骨腫瘍について説明できる	講義
	4	整形外科疾患：筋・腱疾患	筋肉炎・筋膜炎、特殊な筋炎・筋膜炎・腱鞘炎、重症筋無力症について説明できる	講義
	5	整形外科疾患：形態異常	先天性股関節脱臼、斜頸について説明できる	講義
	6	整形外科疾患：形態異常	側弯症、外反母趾、内反足について説明できる	講義
	7	整形外科疾患：脊椎疾患	椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、脊椎分離症・すべり症について説明できる	講義
	8	整形外科疾患：脊椎疾患、脊髄疾患	変形性脊椎症、脊柱管狭窄症、腰痛症、頸椎捻挫・むちうち損傷、脊髄損傷について説明できる	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解答・解説		講義
	11	整形外科疾患：外傷	骨折、脱臼、捻挫について説明できる	講義
	12	整形外科疾患：外傷	スポーツ外傷・傷害について説明できる	講義
	13	整形外科疾患：その他	胸郭出口症候群、頸腕・頸肩腕症候群、ガングリオン、手根管症候群について説明できる	講義
	14	消化管疾患：食道疾患	食道癌について説明できる	講義
	15	消化管疾患：食道疾患	食道炎・食道潰瘍について説明できる	講義
	16	消化管疾患：胃・十二指腸疾患	胃炎、胃・十二指腸潰瘍について説明できる	講義
	17	消化管疾患：胃・十二指腸疾患	胃癌について説明できる	講義
	18	期末試験		試験
後期	19	期末試験の解答・解説		講義
	20	消化管疾患：腸疾患	潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群について説明できる	講義
	21	消化管疾患：腸疾患	虫垂炎、大腸癌、腸閉塞について説明できる	講義
	22	肝・胆・膵疾患：肝疾患	急性肝炎、慢性肝炎について説明できる	講義
	23	肝・胆・膵疾患：肝疾患	肝硬変、肝癌について説明できる	講義
	24	肝・胆・膵疾患：胆道疾患	胆石・胆嚢炎について説明できる	講義
	25	肝・胆・膵疾患：胆道疾患	胆のう癌、総胆管癌について説明できる	講義
	26	肝・胆・膵疾患：膵臓疾患	急性膵炎、慢性膵炎、膵癌について説明できる	講義
	27	中間試験		試験
	28	中間試験の解答・解説		講義
	29	腎・泌尿器疾患：原発性糸球体腎炎	糸球体腎炎、ネフローゼ症候群について説明できる	講義
	30	腎・泌尿器疾患：腎不全、感染症	腎不全、腎硬化症、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎について説明できる	講義
	31	腎・泌尿器疾患：腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患	腎腫瘍、膀胱癌、腎・尿管結石症、前立腺肥大、前立腺癌について説明できる	講義
	32	内分泌疾患：下垂体疾患	クッシング病、先端巨大症、巨人症、成長ホルモン分泌不全性低身長症(下垂体性低身長症)、尿崩症について説明できる	講義
	33	内分泌疾患：甲状腺疾患	甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、慢性甲状腺炎(橋本病)について説明できる	講義
	34	内分泌疾患：副腎疾患	副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)、原発性アルドステロン症、副腎機能低下症(アジソン病)、褐色細胞腫について説明できる	講義
	35	期末試験		試験
	36	期末試験の解答・解説		講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門基礎分野 疾病の成り立ち、予防、回復の促進

【科目】 疾病・障害の診断と治療学Ⅳ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	村上 陽児 (むらかみ ようじ)	
単位数	2 単位	実務経験	治療院 勤務	
科目必選区分	必修	時間数	36	
開講学期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	臨床現場ではリハビリを受けながら来院してくる患者様も多い。どのようなリハビリを受けているのか理解をするためにも、リハビリテーションの確立されてきた経緯や理念、「障害」の定義、我が国の身体障害の分類と統計、地域社会でのリハビリテーションの位置づけ、医学的リハビリテーションにおける代表的な手法（身体や日常生活活動の評価法、運動療法、物理療法、装具、車椅子、義肢など）の概要、代表的な身体障害に対するリハビリテーション内容の概要について講義する。
授業の一般目標 (GIO)	障害者や高齢者が自立生活の獲得・維持を目的として受けているリハビリテーション医療への理解を深め、それらと連携するため、リハビリテーションの基本事項および代表的な身体障害に対するリハビリテーションの概要を学習する。

【担当教員から】

教科書	「リハビリテーション医学」公益社団法人 東洋療法学校協会 編
参考書	
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合%) 中間試験成績-----20% 期末試験成績-----80%
履修の条件 留意点	後期試験が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	2年次ではリハビリテーションの基礎をしっかりと学んでいきます。今医療は様々な専門職種が関わり、チームで協力して疾病の予防・治療に取り組んでいます。様々な方面からの疾病に対するアプローチを理解し、多職種と共に医療に関わっていけるようになるのが目標となります。テスト法や装具名など聞き慣れない言葉もあるかと思いますが、一緒に頑張っていきましょう。分からないことがあれば積極的に質問しにきてください。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
後期	1	リハビリテーション医学・医療 理念・目的・語源・歴史 生活機能分類	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーション、自立生活、QOLを説明できる。 ・障害の概念、身体障害の分類を説明できる。 ・最近の身体障害者の統計的傾向を説明できる。 ・リハビリテーション関係職種の概要を説明できる。 ・地域リハビリテーションの概要を説明できる。 	講義
	2	リハビリテーションの分類 リハビリテーション医療・医療チーム 地域リハビリテーション		講義
	3	運動学 姿勢制御 歩行 運動学習	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や重心、正常歩行について説明できる。 ・運動学習について説明できる。 ・ROM-Tにおける基本軸・移動軸の概要を説明できる。 ・徒手筋力テスト(MMT)の概要を説明できる。 ・主な関節運動(その主動筋)のMMTを実践できる。 ・主な身体機能評価の概要を説明できる。 	講義
	4	診断・評価学 診断・評価とは リハビリテーション診療の流れ 検査・測定		講義
	5	診断・評価学 ADL・高次脳機能・運動発達 心理・摂食嚥下・筋緊張・片麻痺	<ul style="list-style-type: none"> ・ADL・高次脳機能・運動発達・心理・摂食嚥下筋緊張・片麻痺についての評価方法を説明できる。 	講義
	6	治療学 運動療法 物理療法	<ul style="list-style-type: none"> ・運動療法、物理療法の効果を説明できる。 ・主な運動療法、物理療法の概要を説明できる。 	講義
	7	治療学 作業療法 言語聴覚療法	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法、言語聴覚療法の効果を説明できる。 ・主な作業療法、言語聴覚療法の概要を説明できる。 	講義
	8	治療学 補装具 自助具・福祉用具	<ul style="list-style-type: none"> ・補装具、自助具、福祉装具の概要を説明できる。 ・主な補装具(装具、杖、車椅子)を分類できる。 	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答		講義
	11	リハビリテーション医学各論 整形外科疾患 (運動器疾患 — 上肢)	<ul style="list-style-type: none"> ・腱板損傷、肩関節周囲炎、上腕骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折について病態やリハビリテーションを説明できる。 	講義
	12	リハビリテーション医学各論 整形外科疾患 (運動器疾患 — 下肢)	<ul style="list-style-type: none"> ・変形性股関節症、大腿骨近位部骨折、変形性膝関節症、膝靭帯損傷、半月板損傷、足関節靭帯損傷、アキレス腱断裂について病態やリハビリテーションを説明できる。 	講義
	13	リハビリテーション医学各論 切断	<ul style="list-style-type: none"> ・病態、主な合併症等を説明できる。 ・主な評価方法、訓練内容、リスク管理～生活指導を説明できる。 	講義
	14	関節リウマチ スポーツ障害 末梢神経障害		講義
	15	リハビリテーション医学各論 虚血性心疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・病態、主な合併症、活動制限等を説明できる。 ・主な評価方法、訓練内容、リスク管理～生活指導を説明できる。 	講義
	16	呼吸器疾患 糖尿病 腎・尿路疾患		講義
	17	後期期末試験		試験
	18	後期期末試験の解説・解答		講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門基礎分野 疾病の成り立ち、予防、回復の促進

【科目】 疾病・障害の診断と治療学Ⅴ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	海塩 洋一（うしお よういち）	
単位数	2 単位	実務経験	施術所勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	36	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	治療院や医療機関には様々な病気を持った患者様が来院する。患者様に病態の説明をするにあたり、病理学の知識がどのように必要となるのかということ踏まえ、病理学を学ぶ意義を理解して、患者が罹患している病気の原因や身体に生じている変化がどのようなものであるかを学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	病気の本態（原因や成り立ち）を科学的に解明するため、解剖学的・組織的・細胞学的・遺伝的側面などに渡る変化を基盤に疾病とその発症メカニズムを理解する。

【担当教員から】

教科書	「病理学」第2版 医歯薬出版（株）
参考書	
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合（%）） 中間試験成績-----20% 期末試験成績-----80%
履修の条件 留意点	前期試験が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当教員からのメッセージ	病理学は、今後対面する患者の病気の成り立ちを知る学問です。興味を持って授業に望んで下さい。 原則として授業後の復習は必須とします。予習以上に復習に力を入れて下さい。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	病因	病理の意義が言える。疾病の分類、症候分類、病期、予後、転帰の意義と分類が説明できる。	講義
	2	ヒト循環系、充血、鬱血、貧血、虚血	充血、鬱血、虚血、貧血が説明できる。	講義
	3	水腫、浮腫、脱水、ショック	水腫、浮腫、脱水、ショックが説明できる。	講義
	4	出血	出血について説明ができる。	講義
	5	血栓症、塞栓症、梗塞	血栓症、塞栓症、梗塞について説明できる。栓子の種類について説明できる。	講義
	6	萎縮、変性	萎縮や変性について説明でき、分類できる。加齢や老化について説明できる。	講義
	7	壊死と死	退行性病変の分類が説明できる。壊死の定義及び分類が説明できる。死やアポトーシスについて説明できる。	講義
	8	肥大と増殖、再生、化生	肥大、増殖、再生、化生について分類及び説明できる。	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説 移植、創傷治癒、異物処理	移植について説明できる。創傷治癒の定義、肉芽組織について説明できる。治癒の過程や分類が説明できる。	講義
	11	炎症一般	炎症の循環障害と滲出、組織の増殖、経過が説明できる。	講義
	12	炎症の分類	炎症の分類が説明でき、代表疾患が言える。	講義
	13	アレルギー	アレルギーの分類が説明でき、その代表的な疾患が言える。	講義
	14	免疫不全、自己免疫異常	免疫不全の概念や疾患が説明できる。自己免疫異常について説明ができる。	講義
	15	腫瘍一般	腫瘍の特色や発生、経過について説明できる	講義
	16	良性腫瘍、悪性腫瘍	良性腫瘍と悪性腫瘍の違いが説明でき代表的な疾患が言える。腫瘍の生体に及ぼす影響が説明できる。	講義
	17	まとめ		講義
	18	前期期末試験		試験

2025年度 鍼灸科

【分野】 専門分野 基礎はき学

【科目】 基礎東洋医学Ⅲ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	菅原 竜太 (すがわら りゅうた)	
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務・治療院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	36	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	<p>実務経験をもとに、施術にあたって注意すべき事項（刺激量・過誤・副作用など）について触れ、鍼灸について理解するため、鍼術・灸術の定義、施術で用いる用具、方法や術式など基礎的知識を身に付ける。また、より安全性の高い技術で施術ができるようにするため、刺激量と感受性、適応症と禁忌、過誤と副作用などの基礎的知識を身に付け、臨床に応用する。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鍼灸施術に用いる用具（鍼・艾）について説明できる。 ・ 刺鍼の方法、鍼灸の術式を挙げ、その特徴を説明できる。 ・ 鍼灸の刺激量に關与する要因、鍼灸刺激に対する感受性について説明できる。 ・ 鍼灸施術の適応症・禁忌症・禁忌部位、過誤・副作用について説明できる。 ・ 関連学説について説明できる。

【担当教員から】

教科書	「はりきゅう理論」 (株) 医道の日本社
参考書	
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	<p>成績評価の基準（評価割合(%)）</p> <p>中間試験成績----- 20%</p> <p>期末試験成績----- 80%</p>
履修の条件 留意点	<p>前期試験が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。一年次の「医療入門」で学んだ内容の復習から始めます。予習（復習）した上で授業にのぞむようにしてください。</p>
★担当者からのメッセージ	<p>はり師・きゅう師が日常業務に携わる上で必要な基礎的な知識を学修します。本科目で得られた知識は、実技の授業や治療に直結します。また、鍼灸がなぜ効くのか、そのメカニズムを解き明かす第一歩となるのも本科目です。是非、好奇心と意欲を持って学習してください。</p>
オフィスアワー	授業開講日の休み時間、または放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
前期	1	鍼灸療法の意義・特徴、鍼の基礎知識	鍼灸療法の意義と特徴を説明できる 鍼灸療法の用具の名称、古代九鍼の種類と特徴を説明できる	講義
	2	刺鍼の方式・術式	撚鍼法、打鍼法、管鍼法の特徴、17手技を説明できる	講義
	3	特殊鍼法	特殊鍼法の種類と特徴を説明できる	講義
	4	灸の基礎知識	艾の製法や品質を説明できる	講義
	5	灸術の種類	灸術の種類と特徴を説明できる	講義
	6	リスク管理 (関連用語の定義、施術上の一般注意事項、鍼灸施術の禁忌)	関連用語の定義、感受性と刺激量、鍼灸施術の禁忌について説明できる	講義
	7	リスク管理 (感染対策)	感染対策について説明できる	講義
	8	リスク管理 (感染対策)	感染対策について説明できる	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答		講義
	11	リスク管理 (鍼施術の有害事象)	鍼施術の有害事象 (出血・気分不良・脳虚血・遺感覚・感染症・気胸) を説明できる	講義
	12	リスク管理 (鍼施術の有害事象)	鍼施術の有害事象 (臓器損傷・神経損傷・抜鍼困難・折鍼・鍼の抜き忘れ・皮膚反応) を説明できる	講義
	13	リスク管理 (灸施術の有害事象)	灸施術の有害事象 (灸あたり、熱傷、灸痕の化膿、灸痕の癌化) を説明できる	講義
	14	関連学説	サイバネティックスの学説、ホメオスタシスについて説明できる	講義
	15	関連学説	ストレス学説について説明できる	講義
	16	関連学説	レイリー現象、圧発汗反射の学説について説明できる	講義
	17	期末試験		試験
	18	期末試験の解説・解答		講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 基礎あはき学

【科目】 基礎東洋医学Ⅳ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	中濱 早苗 (なかはま さなえ)	
単位数	2 単位		附属施術所勤務・鍼灸整骨院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	36	
開講学期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	あはきを利用する患者には、それぞれの原因、複雑多様な病態など、様々な問題を抱え来院し、治療家はその患者に合わせた問題解決をする能力が求められる。東洋医学臨床論では、臨床医学総論や各論で学んだ病期の症状、病態に関する知識によって鍼灸の適応となる疾患を導き出し、その疾患に対しての対処法や治療法を学ぶ、まさに臨床のための科目であるため、現場での臨床経験を踏まえながら、講義を進めていく。
授業の一般目標 (G10)	臨床現場では様々な主訴を持った患者が訪れ、鍼灸治療あるいは按摩指圧マッサージ治療を受ける。しかし、疾患によっては、鍼灸治療あるいは按摩指圧マッサージ治療の適応外のものもあるため、この科目ではあはき治療の適応および治療方針を理解する。

【担当教員から】

教科書	「東洋医学臨床論」 社団法人 東洋療法学校協会 編
参考書	
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合%) 中間試験成績 ----- 20% 期末試験成績 ----- 80%
履修の条件 留意点	後期試験が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当教員からの メッセージ	東洋医学臨床論では様々な病態への対処法を学んでいきますが、そこには現代医学、東洋医学の基本的考え方を基にした原理原則が存在します。治療に対する普遍的な考え方や治療家として大切にしなければならないことなどを、私の臨床経験で得たことを交えて講義し、学生の皆さんが卒業してから活かされるような内容にしていきたいと思っています。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
後期	1	関節痛	<ul style="list-style-type: none"> 各疾患の現代医学的考え方が説明できる 注意を要するものが判断できる 適用となるものが判断できる 各疾患の東洋医学的考え方が説明できる 	講義
	2	頸肩腕痛・肩こり		講義
	3	上肢痛		講義
	4			講義
	5	肩関節痛		講義
	6	腰下肢痛		講義
	7	腰痛・下肢痛		講義
	8	スポーツ医学（概要、スポーツ傷害）		講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説	講義	
	11	膝痛	<ul style="list-style-type: none"> 各疾患の現代医学的考え方が説明できる 注意を要するものが判断できる 適用となるものが判断できる 各疾患の東洋医学的考え方が説明できる 	講義
	12	胸痛		講義
	13	腹痛		講義
	14	悪心・嘔吐		講義
	15	便秘		講義
	16	下痢		講義
	17	期末試験		試験
	18	期末試験の解説・解答		講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 臨床あはき学

【科目】 臨床東洋医学Ⅰ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	中濱 早苗（なかはま さなえ）	
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務・鍼灸整骨院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	36	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	二年次の東洋医学概論では、臨床現場で適切な治療の選択が行えるよう実際にあった話を取り入れ、東洋医学的な診断方法を学修する。またその症状に至るまでのプロセスも学び、様々な症状に対して応用ができるようになることを目的とする。
授業の一般目標 (G10)	望診（視覚による診察法）、聞診（聴覚・嗅覚による診察法）、問診（証判定に必要な情報を聞き出す診察法）、切診（病人の身体に手を触れて行う診察法）の知識を修得する。

【担当教員から】

教科書	「新版 東洋医学概論」第1版 （株）医道の日本社
参考書	
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合(%)） 中間試験成績-----20% 期末試験成績-----80%
履修の条件 留意点	前期試験が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	2年生の東洋医学概論では診断の際に重要な四診法を身に付けていきます。四診法とは西洋医学という診察法です。正しい診察ができなければ、病体把握はもちろん、治療も行うことはできません。2年生で基礎になる四診法を身に付け、病態を東洋医学的に自分で考えることができるようになるのが目標です。授業の予習、復習と東洋医学的用語の暗記は必須となります。授業での疑問点、わからない点は積極的に質問しにきてください。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
前期	1	有神、無神、仮神、顔面の色、皮膚の色、体形について学ぶ	神、色、形から病証を推論できる	講義
	2	態（姿勢、動作）、舌質（舌神、舌色）について学ぶ	姿勢、動作、舌の色から病証を推論できる	講義
	3	舌質（舌形、舌態、舌下脈絡）舌苔（苔色、苔質）について学ぶ	舌の形状や動き、舌下静脈、舌の上に付着した苔から病証を推論できる	講義
	4	声（高さ、大きさ）、呼吸の異常、臭いについて学ぶ	声の高さ・大きさ、声質、話し方、呼吸の異常などから病証を推論できる	講義
	5	原因、経過、部位、性状、程度について学ぶ	東洋医学に特徴のある主訴を推論できる	講義
	6	寒熱、飲食、睡眠、二便について学ぶ	寒熱、飲食、睡眠や大便、小便から病証を推論できる	講義
	7	情志、生活環境、身体各部位の症状（五官）について学ぶ	情志や五官から病証を推論できる	講義
	8	身体各部位の症状（頭部、咽喉部、胸部、腹部、全身症状）、汗、疼痛（部位）について学ぶ	身体各部位の症状や汗、痛む部位から病証を推論できる	講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説・解答		講義
	11	疼痛（性質、程度、特徴）、女性、既往歴、家族歴、小児について学ぶ	痛みの性質や程度、女性特有の症状などから病証を推論できる	講義
	12	圧痛、硬結、難経系・傷寒論系腹診について学ぶ	切診による反応や腹診から病証を推論できる	講義
	13	切経、募穴診、背診、寸口脈法について学ぶ	切経、募穴診、寸口脈診から病証を推論できる	講義
	14	脈状診について学ぶ	脈状診から病証を推論できる	講義
	15	比較脈診、六部定位脈診について学ぶ	比較脈診、六部定位脈診から病証を推論できる	講義
	16	四診合参について学ぶ	四診合参を例を挙げ説明できる	講義
	17	前期期末試験		試験
	18	前期期末試験の解説・解答		講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 臨床あはき学

【科目】 臨床東洋医学Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	奥津 貴子（おくつ たかこ）	
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務・鍼灸整骨院勤務経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	36	
開講学期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	鍼灸治療の際、正確な経穴を取穴し鍼と灸ができていのかどうか、安全な深さや角度で行えているのかのどうかが大切になる事を踏まえ、1年次に学んだ概論を基礎として、正経十二経と属する経穴の各論を臨床経験に基づいて教授する。 各経絡に属する経穴の部位・要穴の部位を理解する。 解剖学的に各経穴と筋・神経との関連を解説する。 要穴については、部位・性質について解説する。
授業の一般目標 (GIO)	正経十二経について流注の概略を説明できる。 各経絡に属する経穴の解剖学的位置を説明できる。 各経絡の要穴の意義・部位を説明できる。

【担当教員から】

教科書	「新版 経絡経穴概論」(社団法人東洋療法学校協会・日本理療科教員連盟編) 医道の日本社
参考書	
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準(評価割合%) 中間試験成績-----20% 期末試験成績-----80%
履修の条件 留意点	後期試験が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	私たち治療者は、患者さんの身体をお預かりしている責任ある立場です。経絡・経穴またそれらに関連する人体の部位や構造をしっかりと理解し身につけた上でなければ、鍼や灸などを安全に行うことができません。また、要穴の意義は、東洋医学的な治療を行う上でなくてはならないものです。そのため、臨床で活かせるようにするため、地味ですが憶えるということをしなければなりません。授業後の復習に力をいれてください。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
後期	1	手の太陰肺経の経穴 解剖学的位置・要穴	手の太陰肺経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	2	手の少陰心経の経穴 解剖学的位置・要穴	手の少陰心経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	3	手の厥陰心包経の経穴 解剖学的位置・要穴	手の厥陰心包経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	4	手の陽明大腸経の経穴 解剖学的位置・要穴	手の陽明大腸経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	5	手の太陽小腸経の経穴 解剖学的位置・要穴	手の太陽小腸経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	6	手の少陽三焦経の経穴 解剖学的位置・要穴	手の少陽三焦経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	7	足の太陰脾経の経穴 解剖学的位置・要穴	足の太陰脾経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	8	足の少陰腎経の経穴 解剖学的位置・要穴	足の少陰腎経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	9	中間試験		試験
	10	足の厥陰肝経の経穴 解剖学的位置・要穴	足の厥陰肝経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	11	足の陽明胃経の経穴 解剖学的位置・要穴	足の陽明胃経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	12	足の陽明胃経の経穴 解剖学的位置・要穴	足の陽明胃経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	13	足の太陽膀胱経の経穴 解剖学的位置・要穴	足の太陽膀胱経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	14	足の太陽膀胱経の経穴 解剖学的位置・要穴	足の太陽膀胱経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	15	足の太陽膀胱経の経穴 解剖学的位置・要穴	足の太陽膀胱経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	16	足の少陽胆経の経穴 解剖学的位置・要穴	足の少陽胆経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	17	足の少陽胆経の経穴 解剖学的位置・要穴	足の少陽胆経の経穴の解剖学的位置・要穴について説明できる	講義
	18	後期期末試験		試験

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 社会あはき学

【科目】 東洋医学と社会学Ⅰ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	村上 陽児 (むらかみ ようじ)
単位数	2 単位	実務経験	治療院 勤務
科目必選区分	必修	時間数	36
開講学期	前期	授業形態・回数	講義 18 回

【授業情報】

授業概要	治療院での経験を基に様々な病態を東洋医学的にどの様に捉えるのかに触れながら、東洋医学臨床論を学ぶにあたり、治療方針などで聞き慣れない中医学用語を簡単に説明する。この授業では、基本的な用語を知り東洋医学臨床論への準備とともに東洋医学臨床論へ移行していく。 東洋医学臨床論は、臨床医学総論や各論で学んだ病期の症状、病態に関する知識によって鍼灸の適応となる疾患を導き出し、その疾患に対する対処法や治療法を学んでいく。
授業の一般目標 (G10)	臨床現場では様々な主訴を持った患者が訪れ、鍼灸治療あるいは按摩指圧マッサージ治療を受ける。しかし、疾患によっては、鍼灸治療あるいは按摩指圧マッサージ治療の適応外のものもあるため、この科目ではあはき治療の適応および治療方針を理解する。

【担当教員から】

教科書	「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」社団法人 東洋療法学校協会 編
参考書	
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合 (%)) 中間試験成績----- 20 % 期末試験成績----- 80 %
履修の条件 留意点	前期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	東洋医学臨床論では様々な病態への対処法を学んでいきますが、そこには現代医学、東洋医学の基本的考え方を基にした原理原則が存在します。治療に対する普遍的な考え方や治療家として大切にしなければならないことなどを、私の臨床経験で得たことを交えて講義し、学生の皆さんが卒業してから活かされるような内容にしていきたいです。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
前期	1	治療理論	I. 治則について説明できる II. 治法について説明できる	講義
	2			講義
	3	疼痛：概説、頭痛	各疾患の現代医学的考え方が説明できる ・注意を要するものが判断できる ・適用となるものが判断できる 各疾患の東洋医学的考え方が説明できる	講義
	4	頭痛		講義
	5	顔面痛		講義
	6	歯痛、顔面麻痺		講義
	7	眼精疲労		講義
	8	鼻閉、鼻汁		講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説		講義
	11	めまい	各疾患の現代医学的考え方が説明できる ・注意を要するものが判断できる ・適用となるものが判断できる 各疾患の東洋医学的考え方が説明できる	講義
	12	耳鳴りと難聴		講義
	13	咳嗽と喀痰		講義
	14	呼吸困難		講義
	15	動悸・息切れ		講義
	16	血圧異常		講義
	17	前期期末試験	試験	
	18	前期期末試験の解説・解答	講義	

2025年度 鍼灸科

【分野】 専門分野 社会はき学

【科目】 東洋医学と社会学Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	飯田 双海 (いいた ふたみ)	
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務	
科目必選区分	必修	時間数	36	
開講学期	後期	授業形態・回数	講義	18 回

【授業情報】

授業概要	<p>はき治療の他に患者様にどういった介入が出来るかを臨床現場での事例を挙げながら、はき治療と連携して行く方法等にも触れ、授業を進めていく。</p> <p>まずは、健康寿命延伸の阻害因子であるサルコペニア、ロコモ、フレイルに関する基本概念を学び、その評価法や予防法などについて学習する。</p> <p>※現代社会におけるニーズに関しては、その年度によって内容を変更しておりますので、決定しだい連絡いたします。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>社会のニーズを認識し、はき師を取り巻く環境を知ることによって地域にどの様に貢献していけるのかを理解する。</p>

【担当教員から】

教科書	配布プリント
参考書	
成績評価基準	<p>評価の観点は 1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期毎に行う中間・期末試験で評価する。</p>
成績評価方法	<p>成績評価の基準 (評価割合 (%))</p> <p>中間試験成績----- 20%</p> <p>期末試験成績----- 80%</p>
履修の条件 留意点	<p>後期試験が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。</p>
★担当者からの メッセージ	<p>サルコペニアやフレイルは、超高齢社会の日本では要介護状態に至る重要な要因としてなどが位置づけられており、予防が健康寿命の延伸を目指すうえで大切です。特にヘルスケアに関わる鍼灸師は、患者の状態にいち早く気づき、介入することが出来る立ち位置であり、サルコペニアやフレイルの知識をもつことが必須であると考えられます。※現代社会におけるニーズに関しては、その年度によって内容を変更しておりますので、決定しだい連絡いたします。</p>
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
後期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鍼灸の受療状況について ・ サルコペニア ・ フレイル ・ ロコモティブシンドローム ・ 高齢者に対する鍼灸治療 	サルコペニアの基礎を理解する	講義
	2			講義
	3		フレイルの基礎を理解する	講義
	4			講義
	5		ロコモティブシンドロームを理解する	講義
	6			講義
	7		高齢者に対するはき治療の方法が分かる	講義
	8			講義
	9	中間試験		試験
	10	中間試験の解説		講義
	11	社会のニーズに関する内容 2024度に関しては、 <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツにおける鍼灸の役割について ・ 不妊・妊婦・経産婦の治療について ・ 慢性痛に対する鍼灸について ・ 姿勢評価の必要性について 	現代社会におけるはき師の役割をについて説明できる。	講義
	12			講義
	13			講義
	14			講義
	15			講義
	16		講義	
	17	期末試験		試験
	18	期末試験の解説		講義

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 実習

【科目】 はりきゅう実習－2

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	三田 正樹 (みた まさき)	
単位数	2 単位	実務経験	はりきゅう院 院長経験あり	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習 36 回

【授業情報】

授業概要	西洋医学的な診察法、鑑別法、検査方法を身につけるとともに、東洋医学的な診察法である脈診、舌診、腹診などを学び、症状に合わせて安全に治療ができることを目標とする。特に臨床の現場で遭遇する機会の多い四大疾患のうち、「頸肩腕痛」「肩関節痛」の具体的症例を中心に学習を進める。また、人体の構造をしっかりと理解して、取穴、刺鍼、施灸を正確かつ安全に行えるように、実務経験の中で身につけたスキルを活かして指導する。
授業の一般目標 (G10)	「頸肩腕痛」、「肩関節痛」の鑑別方法を知り適切な検査法を選択することができる。検査法を的確に行える。症状に合わせた治療ができる。東洋医学の伝統的な四診を学んでいく。各症候の主な原因疾患を列挙し、治療に結びつけることができる。

【担当教員から】

教科書	「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」 東洋療法学校協会編 医道の日本社 「新版 経絡経穴概論」 東洋療法学校協会編 医道の日本社
参考書	
成績評価基準	評価の観点は 1) 実技の習得状況、2) 授業の理解度について、学期ごとに行う中間および期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合 (%)) 中間試験成績 ――― 20 % 期末試験成績 ――― 80 %
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が 60 % 以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当教員からのメッセージ	適切な治療を行うために最も大切なことは、鍼灸治療の適応なのか不適応なのか、またどのような病態なのかを見極めることです。そのために疾患の鑑別、適切な検査法を行えるようにしなければなりません。「頸肩腕痛」、「肩関節痛」は基礎となる疾患ですので、しっかりと身につけましょう。また、東洋医学的な診察法は、多くの情報が得られるだけでなく、治療者としての五感が磨き上げられます。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態	
前期	1	頸肩腕痛①	頸肩腕痛の概要、注意を要するもの、適応となるものが説明出来る。	実習	
	2	頸肩腕痛②		実習	
	3	頸肩腕痛③		実習	
	4	頸肩腕痛④		実習	
	5	頸肩腕痛⑤		頸肩腕痛の検査法、鑑別診断が出来る。鍼灸治療が出来る。	実習
	6	頸肩腕痛⑥			実習
	7	頸肩腕痛⑦			実習
	8	頸肩腕痛⑧			実習
	9	中間試験			試験
	10	肩関節痛①	肩関節痛の概要、注意を要するもの、適応となるものが説明出来る。	実習	
	11	肩関節痛②		実習	
	12	肩関節痛③		実習	
	13	肩関節痛④		実習	
	14	肩関節痛⑤		肩関節痛の検査法、鑑別診断が出来る。鍼灸治療が出来る。	実習
	15	肩関節痛⑥			実習
	16	肩関節痛⑦			実習
	17	肩関節痛⑧			実習
	18	前期期末試験			試験
後期	19	臨床形式・カルテ記載①（頸肩腕痛・肩関節痛）	問診と検査法、カルテ記載の実習	実習	
	20	臨床形式・カルテ記載②（頸肩腕痛・肩関節痛）	問診と検査法、カルテ記載の実習	実習	
	21	臨床形式・鍼灸治療①（頸肩腕痛・肩関節痛）	病態把握・治療方針・処方（刺鍼・施灸）	実習	
	22	臨床形式・鍼灸治療②（頸肩腕痛・肩関節痛）		実習	
	23	臨床形式・鍼灸治療①（頸肩腕痛・肩関節痛）		実習	
	24	臨床形式・鍼灸治療②（頸肩腕痛・肩関節痛）		実習	
	25	脈診	脈診の方法が分かる	実習	
	26	まとめ		実習	
	27	中間試験		試験	
	28	舌診	舌診の方法が分かる	実習	
	29	腹診	腹診の方法が分かる	実習	
	30	候背診	候背診の方法が分かる	実習	
	31	特殊鍼法①	小児鍼の方法がわかる	実習	
	32	特殊鍼法②	低周波が扱える（下肢）	実習	
	33	特殊鍼法③	低周波が扱える（上肢）	実習	
	34	特殊鍼法④	耳鍼の方法が分かる	実習	
	35	後期期末試験		試験	
	36	後期期末試験の解説・解答		実習	

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 実習

【科目】 はり・きゅう実習－2

【基本情報】

配当年次	2 学年		担当教員	芹澤 富司（せりざわ とみじ）	
単位数	2 単位		実務経験	鍼灸マッサージ治療院 院長	
科目必選区分	必修		時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習	36 回

【授業情報】

授業概要	教科書に記載されている治療穴や方法に加え、臨床に多い四大疾患のうち「腰下肢痛」、「膝関節痛」を中心に実習を進め、鑑別法や検査の方法を身につけるとともに、症状に合わせた治療ができることを目標に、現場経験を活かして実技指導を行う。同時に、特殊鍼法の灸頭鍼の施術方法についても学習し、適切な取穴により安全に鍼灸施術が行えるよう指導する。
授業の一般目標 (GIO)	「腰下肢痛」、「膝関節痛」の鑑別方法を知り適切な検査法を選択することができる。検査法を的確に行える。各症候の主な原因疾患を列挙し、治療に結びつけることができる。症状に合わせた治療ができる。特殊鍼法を学んでいく。

【担当教員から】

教科書	「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」 東洋療法学校協会編 医道の日本社
参考書	「はりきゅう実技〈基礎編〉」 東洋療法学校協会編 医道の日本社
成績評価基準	評価の観点は 1) 実技の習得状況、2) 授業の理解度について、学期ごとに行う中間および期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合％） 中間試験成績――20％ 期末試験成績――80％
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が60％以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当教員からのメッセージ	検査法などは何度も繰り返すことでやり方の要領も良くなり、臨床の場面でもスムーズに身体が動くものなので解剖学的なイメージや検査の意義も考えながら何度も反復して復習すること。また触診は知識と意識と経験の積み重ねなので、そちらにも集中すること。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態	
前期	1	腰下肢痛①	腰下肢痛の概要、注意を要するもの、適応となるものが説明出来る。	実習	
	2	腰下肢痛②		実習	
	3	腰下肢痛③		実習	
	4	腰下肢痛④		実習	
	5	腰下肢痛⑤		腰下肢痛の医療面接、検査法、鑑別診断が出来る。鍼灸治療が出来る。	実習
	6	腰下肢痛⑥			実習
	7	腰下肢痛⑦			実習
	8	腰下肢痛⑧			実習
	9	中間試験			試験
	10	膝関節痛①	膝関節痛の概要、注意を要するもの、適応となるものが説明出来る	実習	
	11	膝関節痛②		実習	
	12	膝関節痛③		実習	
	13	膝関節痛④		実習	
	14	膝関節痛⑤		膝関節痛の医療面接、検査法、鑑別診断が出来る。鍼灸治療が出来る。	実習
	15	膝関節痛⑥			実習
	16	膝関節痛⑦			実習
	17	膝関節痛⑧			実習
	18	前期期末試験			試験
後期	19	臨床形式・医療面接（腰下肢痛・膝関節痛）	医療面接の注意事項、実習	実習	
	20	臨床形式・カルテ記載①（腰下肢痛・膝関節痛）	医療面接と検査法、カルテ記載の実習	実習	
	21	臨床形式・カルテ記載②（腰下肢痛・膝関節痛）	医療面接と検査法、カルテ記載の実習	実習	
	22	臨床形式・鍼灸治療①（腰下肢痛・膝関節痛）	病態把握・治療方針・処方（刺鍼・施灸）	実習	
	23	臨床形式・鍼灸治療②（腰下肢痛・膝関節痛）		実習	
	24	臨床形式・鍼灸治療①（腰下肢痛・膝関節痛）		実習	
	25	臨床形式・鍼灸治療②（腰下肢痛・膝関節痛）		実習	
	26	まとめ		実習	
	27	中間試験	試験		
	28	特殊鍼法①	灸頭鍼の概要がわかる	実習	
	29	特殊鍼法②	灸頭鍼を安全に行える	実習	
	30	特殊鍼法③	皮内針法の方法が分かる	実習	
	31	頭部、顔面の刺鍼①	頭部、顔面の刺鍼が安全に行える	実習	
	32	頭部、顔面の刺鍼②	頭部、顔面の刺鍼が安全に行える	実習	
	33	頭部、顔面の刺鍼③	顔面神経麻痺の治療	実習	
	34	頭部、顔面の刺鍼④	顔面痛の治療	実習	
	35	後期期末試験		試験	
	36	後期期末試験の解説・解答		実習	

2025年度 鍼灸科

【分野】 専門分野 実習

【科目】 はり・きゅう実技－2

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	江副 史朗（えぞえ しろう）	
単位数	2 単位	実務経験	附属施術所勤務	
科目必選区分	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習 36 回

【授業情報】

授業概要	前期では、臨床で遭遇しやすい疾患を東洋医学的に治療できることを目標とし、後期では、特殊鍼法（低周波通電療法）および主要関節に於ける鍼灸治療を学び、各症状に合わせて適切な取穴により安全に鍼灸施術ができるようになることを目標とする。また、治療するにあたり、取穴がスムーズに出来なければ患者様に不快感を与える要因にもなることから、全体を通して速やかな取穴方法を修得できるように指導する。
授業の一般目標 (GIO)	各症候の主な原因疾患を列挙し、治療に結びつけることができる。 症状に合わせた治療ができる。 特殊鍼法を身につける。

【担当教員から】

教科書	「はりきゅう実技<基礎編>」 東洋療法学校協会編 医道の日本社
参考書	「はりきゅう理論」 東洋療法学校協会編 医道の日本社
成績評価基準	評価の観点は1) 実技の習得状況、2) 授業の理解度について、学期ごとに行う中間および期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合(%)） ・ 中間試験（レポート）――20% ・ 期末試験成績――――80%
履修の条件 留意点	前期試験および後期試験の平均点が60%以上かつ進級試験の合格を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には充分注意してください。1年次までに学習した解剖学・経絡経穴概論などが基になります。よく復習しておくことが必要です。
★担当教員からの メッセージ	切経・取穴・施鍼（施灸）、ひとつひとつのプロセスを丁寧に行いましょう。前期の東洋医学的治療は鍼灸師として様々な症状に対応するために必要な内容となります。後期の頸肩腕、腰下肢に対する知識や治療法のベースは今後の臨床において必須な内容となります。一回一回の授業に対し真剣に臨み、反復して復習していきましょう。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間および放課後 1F職員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態	
前期	1	刺鍼の基本手技	準備、消毒、刺鍼の復習	実習	
	2	施灸の基本手技	準備、消毒、施灸の復習、失眠に施灸	実習	
	3	東洋医学的治療	肩関節痛に対する鍼灸治療ができる	実習	
	4	東洋医学的治療		実習	
	5	東洋医学的治療		実習	
	6	東洋医学的治療		実習	
	7	東洋医学的治療		実習	
	8	東洋医学的治療		頸肩腕痛に対する鍼灸治療ができる	実習
	9	東洋医学的治療		実習	
	10	東洋医学的治療	腰下肢痛に対する鍼灸治療ができる	実習	
	11	東洋医学的治療		実習	
	12	東洋医学的治療		実習	
	13	東洋医学的治療		実習	
	14	東洋医学的治療		膝関節痛に対する鍼灸治療ができる	実習
	15	東洋医学的治療		実習	
	16	前期期末試験	鍼試験	試験	
	17	前期期末試験	灸試験	試験	
	18	前期期末試験の解説・解答		実習	
後期	19	特殊鍼法	下肢の筋に対する低周波通電ができる	実習	
	20	特殊鍼法		実習	
	21	特殊鍼法		実習	
	22	特殊鍼法		実習	
	23	特殊鍼法		実習	
	24	特殊鍼法		肩関節の筋に対する低周波通電ができる	実習
	25	特殊鍼法	実習		
	26	特殊鍼法	実習		
	27	特殊鍼法	実習		
	28	特殊鍼法	腰下肢の筋に対する低周波通電ができる	実習	
	29	特殊鍼法	実習		
	30	特殊鍼法	実習		
	31	特殊鍼法	散鍼・鋤鍼ができる	実習	
	32	特殊鍼法	胃の六つ灸ができる	実習	
	33	特殊鍼法	拮抗筋治療ができる	実習	
	34	後期期末試験	鍼試験	試験	
	35	後期期末試験	灸試験	試験	
	36	後期期末試験の解説・解答		実習	

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨床実習Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年		担当教員	鍼灸マッサージ科専任教員、臨床実習指導者	
単位数	2 単位			附属施術所勤務など	
科目必選区分	必修		時間数	90	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習	46 回

【授業情報】

授業概要	<p>施術者（指導員）による診察施術を補助する。グループ内で役割分担し、責任感を持ったチームワークで診察を実践する。患者の安全確保、患者との適切な信頼関係構築に努めながら、正規授業で得た基本的診察法の知識・技術を実践する。適切な診療録の作成方法を学習する。</p> <p>学外実習では、あはき施設や他業種における様々な患者対応の方法を見学する。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>患者への敬意と思いやりを持った明確なコミュニケーションを実践できる。</p> <p>基本的な診察法の知識・技術を、患者に対して衛生的で安全に実践できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療面接、血圧・脈拍測定、徒手検査各種（主に頸肩腕、腰下肢、膝）、その他 <p>診療録を適切に作成できる。</p> <p>自己課題、自己目標を見つけることができる。</p>

【担当教員から】

教科書	
参考書	他授業でのノート、資料など
成績評価基準	<p>あはき師としての身だしなみが適切である。</p> <p>患者とのコミュニケーションを適切に実施できる。</p> <p>基本的な診察法の知識・技術を適切かつ安全に運用できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療面接、血圧・脈拍測定、徒手検査各種など <p>診療録を適切に作成できる。</p> <p>自己課題、自己目標を見つけることができる。</p>
成績評価方法	<p>成績評価の基準（評価割合（%））</p> <p>上記評価基準の各内容に対する評価―― 50%</p> <p>課題（レポート等）提出―― 50%</p> <p>各回の実習指導者が上記を評価する。全回終了後、各回の評価をまとめて算出したものを当年度臨床実習の総合評価とする。</p>
履修の条件 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学生個々に実習日が設定されます。臨床実習のルールに則り、身だしなみを整えて臨んでください。 ・臨床実習は出席率 100%も履修条件です。体調不良等やむを得ず出席が困難な場合、速やかに学校へ連絡してください。
★担当者からの メッセージ	<p>鍼灸臨床で多くを占める筋骨格系の障害（主に頸、肩、上肢、腰、下肢、膝）を抱える患者に対し、指導教員による診察・施術を学生の皆さんにチームワークで補助していただきます。ご協力いただく患者さんの安全のため、学科と実技授業で学習した身体構造・機能、基本的な診察方法などの知識・技術をしっかり復習して臨床実習に挑んでください。</p> <p>1年次に引き続き、集合スケジュール、適切な身だしなみ、他者との適切な信頼関係構築、施設の清掃・整理整頓にも抜かりなく取り組んでください。</p>
オフィスアワー	授業時間外

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
通年		臨床実習Ⅱ ガイダンス	臨床実習の意義、ルール、スケジュールおよび医療面接の説明を受け、理解する。	講義
	1	当校施術所にて臨床実習Ⅱ-1	指導教員による診察、施術の流れを理解する ・SOAP ・インフォームド・コンセント ・鍼灸の運用	臨床実習
	2	診察・施術の見学・補助		
	3	当校施術所にて臨床実習Ⅱ-1	診察の補助を適切に実施できる ・血圧・脈拍測定	臨床実習
	4	診察・施術の見学・補助		
	5	当校施術所にて臨床実習Ⅱ-1	診察データのメモを取り、診療録を適切に作成できる 患者対応、周辺業務を適切に実施できる	臨床実習
	6	診察・施術の見学・補助		
	7	当校施術所にて臨床実習Ⅱ-1		臨床実習
	8	診察・施術の見学・補助		
	9	当校施術所にて臨床実習Ⅱ-1		臨床実習
	10	診察・施術の見学・補助		
	11	当校施術所にて臨床実習Ⅱ-1	指導教員による診察、施術の流れを理解する 毎回役割を変えながら、診察の補助を適切に実施できる ・血圧・脈拍測定 ・各種身体測定・徒手検査 [頸・上肢・肩・腰下肢・膝・その他]	臨床実習
	12	診察・施術の見学・補助		
	13	当校施術所にて臨床実習Ⅱ-1	診療録を適切に作成できる 患者対応、周辺業務を適切に実施できる	臨床実習
	14	診察・施術の見学・補助		
	15	当校施術所にて臨床実習Ⅱ-1		臨床実習
	16	診察・施術の見学・補助		
	17	当校施術所にて臨床実習Ⅱ-1		臨床実習
	18	診察・施術の見学・補助		
	19	当校施術所にて臨床実習Ⅱ-1	指導教員による診察、施術の流れを理解する 毎回役割を変えながら、診察の補助を適切に実施できる ・血圧・脈拍測定・各種身体測定・徒手検査 ・病態の推察	臨床実習
	20	診察・施術の見学・補助		
	21	当校施術所にて臨床実習Ⅱ-1	診療録を適切に作成できる 患者対応、周辺業務を適切に実施できる	臨床実習
	22	診察・施術の見学・補助		
	23	当校施術所にて臨床実習Ⅱ-1		臨床実習
	24	診察・施術の見学・補助		
	25	学外臨床施設にて臨床実習Ⅱ-2		臨床実習
	26			
	27	学外臨床施設にて臨床実習Ⅱ-2		臨床実習
	28			
	29	学外臨床施設にて臨床実習Ⅱ-2		臨床実習
	30			
	31	学外臨床施設にて臨床実習Ⅱ-2		臨床実習
	32			
	33	学外臨床施設にて臨床実習Ⅱ-2	あはき師に相応しい身だしなみで訪問する。 施術所や臨床実習の規則、指導者の指示、法律を遵守し、適切な挨拶や自己紹介ができ、敬意を持って適切に対応できる。 各施設ごとの従事者と利用者の様子、業務の専門性、地域での在り方を知る。 地域包括ケアにおける将来的な自己目標・自己課題を見出し、記録する。	臨床実習
	34			
	35	学外臨床施設にて臨床実習Ⅱ-2		臨床実習
	36			
	37	学外臨床施設にて臨床実習Ⅱ-2		臨床実習
	38			
	39	学外臨床施設にて臨床実習Ⅱ-2		臨床実習
	40			
	41	学外の施設にて臨地実習Ⅱ-3		臨床実習
	42			
	43	学外の施設にて臨地実習Ⅱ-3		臨床実習
	44			
	45	学外の施設にて臨地実習Ⅱ-3		臨地実習
46				

※社会情勢や実習施設等の諸事情により、実施内容や順番を変更する場合があります。

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	塗々木 和男（とどき かずお）	
単位数	2 単位	実務経験		
科目必選区分	必修	時間数	30	
開講学期	前期	授業形態・回数	VOD	15 回

【授業情報】

授業概要	薬とはどういうものなのかの基礎的知識から、より多くの方が服用する生活習慣病治療薬である抗高血圧薬、高脂血症治療薬、糖尿病治療薬、睡眠薬、抗がん薬、鎮痛薬などの生体への作用・効果を説明します。漢方薬の需要もさらに増している今日、東洋医学における漢方の役割も取り上げます。
授業の一般目標 (G10)	患者さん自身、医療への意識が非常に高まってきている昨今、皆さんが医療人として患者さんと接したときに話す薬の作用・効果を理解する。

【担当教員から】

教科書	オンデマンドで配布する資料等
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・ 基本的知識の修得 ・ 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無
成績評価方法	VODごとの課題（またはレポート）の評価をもって成績とする。
履修の条件 留意点	最終成績の点が60点以上を以て履修とする。ただし、授業回数の3分の2以上の出席が無い場合は当該科目についての評価を受けることが出来ない。授業の出欠には充分注意すること。
★担当者からの メッセージ	今日、高齢化社会を迎え、何某かの疾患にかかり医薬品の処方を受けている患者さんが増えています。また、情報化社会の発達で医薬品に対する関心も高まっています。処方されている鎮痛薬などの薬のことを話される患者さんが現れるかもしれません。それゆえ、柔道整復師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師としての本来の知識・技量に加え、薬に関する一般的・基本的知識も避けて通れない課題と思われる。授業後は復習の習慣をつけることが大事です。予習→授業→復習のサイクルを守るようにして下さい。質問は授業中でも大歓迎ですが、時間が十分に取れない場合があります。Eメール (ktodoki8@gmail.com) でも受付ますので利用して下さい。楽しく、活発な授業にしていきたいと考えています。
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	総論：薬の基本知識	医薬品について説明できる。	VOD
	2	総論：薬物療法	薬物療法について説明できる。	VOD
	3	総論：薬が作用するしくみ（薬力学）	薬物受容体の作用機構について説明できる。	VOD
	4	総論：薬の体内挙動（薬物動態）	吸収、分布、代謝、排泄を説明できる。	VOD
	5	各論：生活習慣病1 （動脈硬化症・高血圧症の治療薬）	病気の成り立ちと代表薬物について説明できる。	VOD
	6	各論：生活習慣病2 （狭心症・心筋梗塞の治療薬）	病気の成り立ちと代表薬物について説明できる。	VOD
	7	各論：生活習慣病3 （糖尿病の治療薬）	病気の成り立ちと代表薬物について説明できる。	VOD
	8	各論：がんの治療薬	病気の成り立ちと代表薬物について説明できる。	VOD
	9	各論：痛みの抑制・鎮痛薬	鎮痛作用のメカニズムと代表薬物について説明できる。	VOD
	10	各論：感染症の治療薬・抗感染生薬	感染症薬治療のメカニズムと代表薬物について説明できる。	VOD
	11	各論：抗アレルギー薬と抗炎症薬	病気の成り立ちと代表薬物について説明できる。	VOD
	12	各論：末梢神経に作用する薬物	病気の成り立ちと代表薬物について説明できる。	VOD
	13	各論：漢方薬1	漢方医学の基本理論について説明できる。	VOD
	14	各論：漢方薬2	代表的な漢方薬の構成と効能について説明できる。	VOD
	15	各論：漢方薬3	漢方薬の知っておくべき副作用について説明できる。	VOD

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	中村 真通（なかむら まさみち）		
単位数	1 単位	実務経験	大学非常勤講師・公認心理師		
科目必選区分	必修	時間数	16		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	VOD	8 回

【授業情報】

授業概要	遭遇する可能性のある対人関係の問題や精神疾患に対する対応を紹介しつつ、心理療法の概論について学習する。
授業の一般目標 (G10)	1. 心理療法とカウンセリングに関する基本的な考え方について理解する。 2. カウンセリングの対象となる主な対人関係の問題や精神疾患について理解する。 3. 精神分析、交流分析、自律訓練法、行動療法、認知行動療法、来談者中心療法、家族療法の理論と技法を理解する。

【担当教員から】

教科書	プリント配布：心理療法についてさらに詳しく学びたい方は、窪内節子・吉武光世著『やさしく学べる心理療法の基礎』（培風館、2003）をお勧めします
参考書	小玉正博・松井豊編 中村真通、他著『生涯発達の中のカウンセリングⅣ』（サイエンス社、2014）
成績評価基準	○授業の理解度 ・ 基本的知識の修得 ・ 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無
成績評価方法	VOD ごとの課題（またはレポート）の評価をもって成績とする。
履修の条件 留意点	最終成績の点が60点以上を以て履修とする。ただし、授業回数の3分の2以上の出席が無い場合は当該科目についての評価を受けることが出来ない。授業の出欠には充分注意すること。
★担当者からの メッセージ	授業毎課題を期限内に提出してください。
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期 後期	1	(1) メンタルな問題とその対応 (2) 統合失調症	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングと心理療法全般に該当する基本的な考え方と倫理について理解できるようになる。 ・カウンセリングの対象となる主な精神疾患について理解できるようになる。 ・精神分析、交流分析、自律訓練法、行動療法、認知行動療法、クライアント中心療法、家族療法の理論と技法を理解できるようになる。 	VOD
	2	(1) カウンセリングと心理療法 (2) ソーシャルスキル		VOD
	3	(1) 気分障害 (2) 精神分析・アドラーとユング		VOD
	4	(1) 交流分析 (2) 自律訓練法		VOD
	5	(1) PTSD・児童虐待 (2) 境界性パーソナリティ障害		VOD
	6	(1) 行動療法 (2) 認知行動療法		VOD
	7	(1) いじめ・不登校 (2) 摂食障害・アルコール関連障害		VOD
	8	(1) クライアント中心療法 (2) 家族療法		VOD

2025年度 鍼灸マッサージ科・鍼灸科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎 人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	長野 慎一（ながの しんいち）	
単位数	1 単位	実務経験		
科目必選区分	必修	時間数	16	
開講学期	後期	授業形態・回数	VOD	8 回

【授業情報】

授業概要	<p>社会福祉の全体像を概括的に学びます。具体的には次の各点に焦点を当てます。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 社会福祉の実践の根底にある理念とはどのようなものであるのか(2) 福祉を必要とする人にこれを供給するための仕組みとしてどのようなものがあるのか(3) 上記の(1)や(2)は国や地域に応じてどう異なるのか <p>授業は、これらの問いに導かれる形で展開されます。</p>
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none">(1) 福祉の根底にある理念を理解し、自ら咀嚼して表現できるようになる(2) 社会福祉に関する制度について正しく理解し、それを表現できるようになる(3) 自ら暮らす日本社会における福祉供給体制について、他の地域・国と比較することで理解し、相対的に考えることができるようになる

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	授業内にレジュメで指示します
成績評価基準	<p>以下の各点を試験及び小レポートで問います。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 授業で説明した知識を理解し表現できるか。(2) 授業で説明した知識を用いて、自ら社会福祉について思考を深め、それを表現できるか。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none">(1) 客観試験課題50% 小レポート50% 計100%(2) 授業内で課す小レポが非常に重要です。真剣に取り組んでください。 <p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。</p>
履修の条件 留意点	最終成績の点が60点以上を以て履修とする。ただし、授業回数の3分の2以上の出席が無い場合は当該科目についての評価を受けることが出来ない。授業の出欠には充分注意すること。
★担当者からの メッセージ	社会福祉という語を聞いても、ほとんどの人が、漠然とした内容しか思い浮かばないのではないのでしょうか。本講義では、日本社会の具体的な制度を取り上げ、社会福祉が意味するところを具体的に知ることができます。同時に他国の制度との比較を通して、福祉に対する考え方の多様性に触れることができます。社会福祉の在り方は、皆さまの生（人生・生活・生命）の在り方を大きく左右します。ぜひ当事者意識をもって積極的に学んでください。
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
後期	1	社会福祉と福祉国家 (1)	国民 (住民) の福祉に責任を負う国家の特徴とそのような国家が出現した歴史的背景を理解し説明できる。	VOD
	2	社会福祉と福祉国家 (2)		VOD
	3	公的扶助としての生活保護	貧困に対処する公的制度として生活保護制度の原則と概要を理解する。現代日本の貧困の状況に対して生活保護制度が果たしている役割を理解し説明できる。	VOD
	4	年金制度 (1)	労働市場からの退出に伴う高齢期の生活保障制度としての公的年金制度の概要を理解する。働き方の相違がいかに保障の厚さの差として結実するかを理解し説明できる。	VOD
	5	年金制度 (2)		VOD
	6	介護保険制度 (1)	介護の社会化を図る制度としての公的介護保険制度を理解する。現代日本社会における家族による介護に焦点を当て、介護の社会化の程度を理解し説明できる。	VOD
	7	介護保険制度 (2)		VOD
	8	医療保険制度	傷害や病気というリスクを社会的に低減する公的制度としての公的医療保険制度を理解し説明できる。	VOD